



12月 幼稚園だより

令和4年12月1日
千代田区立番町幼稚園
園長 中村 千絵

番町子ども劇場のできるまで

— 子どもと大人で一緒につくる —



園長 中村 千絵

(番町幼稚園HP)

12月10日は番町子ども劇場です。3学年それぞれが劇遊びや、歌、合奏などを通して、表現することの楽しさを経験し、また、その経験を保護者の方にも見ていただく大切な機会です。番町幼稚園では、劇は、子どもと大人と一緒に作りだしていきます。

「劇」をつくることは、「ひとつの世界」をつくっていくことに似ているように感じます。「劇」の世界観をつくり、登場人物(あるいは動物・擬人化された物)を考え、その人物がどんな役回りをするか考え、衣装や小道具、大道具、音楽を考えていく。まだまだつくっている最中の劇ですが、どんな風にできあがっていくのかをご紹介します。

<世界観を楽しむ>

1 か月より少し前から、どんな世界の劇にするかを子どもと一緒に考えていきます。日本の昔話にしようか、それとも、絵本のお話、オリジナルのファンタジーの世界、担任は簡単な劇遊びやお話づくりを子どもたちとする中で、「今の子どもたちにぴったりの世界」を見つけていきます。

これが決まると、その「世界」でごっこ遊びやお話作りをたっぷり楽しめます。

☆3歳児もも組☆ 「がらがらどん」のお話のやりとりを楽しむ

「大きなかぶ」や「3匹のこぶた」など繰り返し楽しい劇ごっこをいろいろ楽しんできたもも組。その中で、ノルウェーの民話「3匹のやぎのがらがらどん」を特に楽しんでいたもも組のこどもたち。トロール役の先生に「だれだ!俺の橋をガタガタさせるのは」と言われるのがちょっと怖くて、でも楽しくて。本当のお話はやぎが渡るのですが、自分の好きな生き物になりたくて、ネコやウサギや恐竜になって橋を渡っています。「何か」になることの楽しさを「がらがらどん」の世界観の中で、たっぷり楽しみました。



これは「大きなかぶ」ごっこの様子。友達と一緒にお話の世界を楽しみます。

<世界観の中で、ストーリーを共に作り出していく>

「このお話(世界観)で子ども劇場につなげよう」と担任が決めると、次は子どもたちとお話づくりが始まります。劇ごっこをしながら、子どもたちの素敵な「思い付き」を教師が拾い、その日のストーリーを作っていきます。何回か繰り返していく中で、子どもたちのお気に入りのストーリーが少しずつ固まってきます。



どの役柄も楽しくて、やりたくて、飛び込みて他の役柄に参加することもある。

☆4歳児さくら組☆ 「めっきらもっきらどおんどん」の世界の中で、自分たちの妖怪を考える

主人公のかんたが神社で迷子になって、妖怪たちに出会うという長谷川摂子作のお話です。教師が「みんなは、どんな妖怪に会って、一緒に遊びたい?」と聞くと、いろいろな考えがでてきます。普段の遊びの中で楽しんでいるプリンセス。少し前にお化け屋敷を楽しんでいた子どもは「お化け!」を提案します。「めっきらもっきらどおんどん」の世界と、自分たちの普段の遊びの世界が融合して、さくら組の「劇」になっていくのです。

<劇の表現に必要なものを共に考え、共に作り出す>

ストーリーが決まってくると、自分は何の役柄がやりたいのかを決めていきます。(※もも組の子どもたちは、その日によって違う、その日にやりたい役を楽しみます) そうすると、役柄の衣装や持ち物も自分たちで考え、大人も素材や技術を提供し、子どもたちの考えが実現できるよう協力していきます。

☆5歳児うめ組☆ 「アラビアンナイト」の世界で、文化の違いも知らながら、役柄を作っていく

アラビアンナイトのお話をたくさん聞き、現在の中東の写真も見ながら、子どもたちは、ストーリーや役柄を考えています。架空の世界のお話としてのアラビアンナイトをきっかけにして、中東の文化にも触れ、世界には様々な国や文化があることを学んでいます。世界の多様性を知ること、これはSDGsでもあります。



どんな言葉(せりふ)を言うか、どんな動きにするか、同じ役柄の子どもと相談します。

劇をつくり上げていく過程に価値があります。どうぞ、ご参観の皆様には、子どもたちの演じる姿を見ながら、そこまでの過程に思いを馳せていただければと思います。年の暮を迎えます。今年地域の皆様、保護者の皆様の園へのお気持ちに感謝申し上げます。どうぞ、よいお年をお迎えください。